
忘れ雪ほろり

はく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忘れ雪ほろり

【Nコード】

N9641K

【作者名】

はく

【あらすじ】

ショートショートです。毎日がハッピーエンド。読む人の心を癒します。

同じような毎日。

同じような会話。

大学3年生の冬。

「では、今日の講義はここまで。レポートを忘れないように」
そう言う講師は出て行ってしまった。

単位のためとはいえ、この講義は酷過ぎる。

講師という立場で、安月給なのはわかる。

しかし、・・・。

「アツヤ、帰りにラーメン食いに行こうぜ」

「何だ。シュンイチか」

「おい、何だとは何だ」

「すまん、考えごとをしていてな」

「あれか？」

「まあな」

「そろそろ忘れたらどうだ？」

「そうだな・・・・・・・・・・」

それは高校3年生の時だった。

「サヤ、忘れ物だぞ」

「アツヤ君か、ありがとう。それ、大切に持っていてね。約束だよ」

「おい」

卒業式のことである。

俺の手の中にはサヤのマフラーが残った。

それ以来、サヤには会っていない。

彼女は親の転勤もあり、県外の大学へ進んだためだ。

「アツヤ！」

俺を現実に戻したのは言うまでもない。

親友であり、悪友でもある、シュンイチ。

明るく、誰とでも仲良く出来るのだが、俺と馬が合ったのは不思議だ。

「わかったよ。今度はどこのラーメン屋だ？」

「2丁目に新しく開店した店があつてな」

「任せるよ」

「おう、急ぐ。腹の虫がさつきからうるさいからな」

大学から電車で2駅のところにあるその店はあつた。

店の前には20人くらいが列を成して並んでいる。

「ここに並ぶのか？」

「そうだ。上手いものを食うにはそれなりの努力が必要だからな」

シュンイチの持論である。

その食いしん坊がスマートで、大学でかなりの女子学生に好意を持たれている。

明るく、積極的な性格は言うまでも無い。

その時である。

「はい、プレゼント」

俺の首にマフラーが巻かれた。

一瞬迷ったが、その声の主がわかった。

サヤだ。

「アツヤ君……」

「サヤ……なのか？」

「そうだよ」

「これさ……」

俺は鞆の中のマフラーを取り出した。

「ありがとう。持っていてくれたのね」

サヤは俺の手からマフラーを受け取り首に巻く。

「サヤ？」

「色違いだけど、お揃いだよ」

「そうか」

「ん？、他に言うことはないのかな？」

「いや、その……ありがとう」

「うん」

「どうしてここが？」

サヤがシュンイチの方をチラッと見る。

そうか。

持つべきものは親友だな。

「良かったな、アツヤ」

そう言った、シュンイチの笑顔が今だけは天使のように見えた。

「アツヤ君、私戻って来たの。大学も一緒だよ」

「そうか」

「それだけ？」

「いや、よろしくな」

「うん、よろしくね」

いつの間にかシュンイチは姿を消していた。

「ねえ、これからだけど・・・」

「歩こう。一緒にだ。聞きたいことも話したいこともたくさんあるからな」

「うん、私も同じだよ。嬉しい・・・」

サヤは顔を赤くしてうつむいてしまった。

「まあ、何だ。俺も同じだ」

「何が？」

「言わせるのか？」

「うん、お願い・・・」

「・・・サヤが好きだったこと」

「うん、私もアツヤ君が好きだよ」

「そうか」

「うん」

「歩こう」

「うん、ずっと一緒だよ」

「ああ、ずっと一緒だ」

「うん」

いつの間にか雪が降っていた。

今年に初めて見る雪。

初雪だ。

忘れ雪ほろり

（後書き）

ファンタジー小説『時空の羽』もよろしくね♪。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9641k/>

忘れ雪ほろり

2010年10月15日23時52分発行